

三田キャンパス内にいるときに大地震が発生したら

防災マニュアルもあわせて、よく読んでください。

1. 地震発生：あわてない！まず、その場で自分の身を守る

- (1) 周囲の窓・棚・天井から、割れたガラスや物が落ちそうな場所から離れる。
- (2) 机の下にもぐる。バッグや衣類などで頭を覆い、落下物から身を守る。
- (3) 余裕があれば、ドアを開け、出口を確保する。
- (4) 実験中で火気や薬品を使用している場合は、担当教員の指示に従い、行動する。
- (5) エレベーターに乗っているときは、自動的に停止した階で降りる。閉じ込められた場合は、非常ボタンやインターフォンで外部と連絡をとり、救助を待つ。
- (6) 中庭など建物外にいるときは、落下物に注意し、危険のない場所で揺れがおさまるのを待つ。

2. 揺れがおさまったら：自分のいる場所の安全を確認する

- (1) 室内の設備の転倒・ガラスが飛散・薬品の漏れがないか確認する。
- (2) 建物にひびが入っているか、傾いていないか。
- (3) 建物内で、火災が発生していないか。

3. 今、どこにいるか

- (1) 建物内にいる場合
危険がない限り、原則として、本震・余震の場合も建物内で待機する。
- (2) 屋外にいる場合、状況を確認して、中庭に避難する。

4. 避難するときの注意点

- (1) 非常放送や教職員からの指示があった場合は、その指示に従う。
- (2) 避難経路の安全を確認しながら、落ち着いて、中庭に避難する。
- (3) 階段を使う。エレベーターは絶対に使わない。
- (4) 押しあわず、走らない。パニックにならないよう、お互いに声をかけながら避難する。
- (5) 忘れ物があっても、元の場所に戻らない。

5. 火災を見つけたら

- (1) 火災を見つけたら、大声で周りに人に知らせ、近くの火災報知器のボタンを押す。
- (2) 火元から速やかに離れ、建物外へ避難する。

6. 停電したら

- (1) あわてない
- (2) 授業中の場合は、担当教員の指示に従って避難する。
- (3) 避難の際は、懐中電灯や携帯電話のライト機能を利用して、足元に気をつけながら落ち着いて避難する。

7. 交通機関が止まって、家に帰れないときは

- (1) 歩いて帰宅が困難な場合は、学内で待機場所が用意されます。教職員の指示に従って、待機場所に移動する。

以上